

可燃ごみが増加 平成26年度ごみ処理実績から

平成26年度に大山町内で排出されたごみの排出量とその処理状況をまとめ、近年の排出量との比較を行いました。

下記のとおり可燃ごみの排出量が増加しており、減量が必要な状況となっています。

生ごみの水切りや、さらなる分別の徹底にご協力いただきますようお願いします。

きちんと分別



図1 平成26年度ごみ排出量及び平成24・25年度との比較

(単位：トン)

種別	26年度排出量	25年度排出量	24年度排出量
可燃ごみ	3,303.37	3,287.14 (16.23)	3,295.04 (8.33)
不燃ごみ ^{※1}	239.28	250.97 (▲11.69)	271.30 (▲32.02)
資源ごみ ^{※2}	656.54	709.24 (▲52.70)	755.98 (▲99.44)
指定びん ^{※3}	2,303	2,576 (▲273)	1,586 (717)
混合粗大ごみ	16.01	10.51 (5.50)	10.77 (5.24)
蛍光管	2.41	2.76 (▲0.35)	2.96 (▲0.55)
乾電池	5.63	5.71 (▲0.08)	6.32 (▲0.69)

カッコ内は、26年度排出量から見た、各年度の排出量との比較

※1 不燃ごみ（不燃ごみ、不燃粗大ごみ）

※2 資源ごみ（缶・びん、古紙類、紙製容器包装、ペットボトル、発泡スチロール）

※3 指定びんの単位は本数

平成26年度のごみ排出量は概ね減少傾向にありますが、可燃ごみの排出量は合併後排出量が最も少なかった平成21年度（3,161.11t）と比較すると、約142.26t（4.3%）増加しています。

また、資源ごみは年々減少しており、特に古紙類の減少が大きくなっています。

次に、可燃ごみ・不燃ごみ・資源ごみの1人1日あたりのごみ年間排出量が図2です。

図2 1人1日あたり年間ごみ排出量

(排出量÷年度人口÷365日 単位：グラム)

種別	26年度排出量	25年度排出量	24年度排出量
可燃ごみ	529.4	519.4 (10.0)	512.0 (17.4)
不燃ごみ ^{※1}	38.4	39.7 (▲1.3)	42.2 (▲3.8)
資源ごみ ^{※2}	105.2	112.1 (▲6.9)	117.5 (▲12.3)
年度人口 ^{※4}	17,094人	17,340人	17,631人



カッコ内は、26年度排出量から見た、各年度排出量との比較

※4 人口は、各年度末時点での人口

1人あたりの排出量も図1の排出量と同様の傾向にありますが、人口減少に伴い可燃ごみの1人あたり排出量の増加割合は高くなっています。（2年間で17.4g（3.3%）の増加。）

また、平成26年度の排出されたごみの処理方法は、図3及び以下のとおりです。

図3 可燃ごみの処理方法

	可燃ごみ搬入量
名和クリーンセンター分	1,918.08 t (58%)
米子市委託分	1,385.29 t (42%)
合計	3,303.37 t (100%)

可燃ごみの排出量が名和クリーンセンターの処理可能量（8t/日）を超えているため、排出量の約4割を米子市に委託し、処理しています。

不燃ごみ及び資源ごみ（発泡スチロールを除く）、指定びんは、西部広域行政管理組合リサイクルプラザ（伯耆町口別所）で処理されました。発泡スチロール・混合粗大ごみ・蛍光管・乾電池は、民間事業者に処理委託しました。

近年可燃ごみの排出量の増加により、米子市に委託する処理量も増加しており、それに伴いごみ処理費用も増加しています。

問い合わせ先 住民生活課 ☎0859-54-5210